

## 第5 主な復興のあゆみ

### 1 平成31年度（令和元年度）～令和3年度 復興の主なあゆみ（年表）

年月日	取組事項
平成31年4月27日	復旧工事が完了したクアテルメ宝泉坊の再開
令和元年5月14日	野村ダム・鹿野川ダム新たな操作ルール等に関する住民説明会
令和元年5月14日	肱川水系野村ダム下流域が水位周知河川に指定（愛媛県）
令和元年5月17日	肱川水系野村地区の洪水浸水想定区域図を作成し公表（愛媛県）
令和元年5月24日	のむら復興まちづくりデザインワークショップが始まる （令和3年12月までに15回開催。今後も継続して開催していく）
令和元年6月3日	漁協などと船舶利用の協定書締結（災害時沿岸部孤立対策）
令和元年6月6日	野村ダム・鹿野川ダムの操作規則を変更
令和元年7月1日	被災した乙亥会館の復旧工事を開始
令和元年7月4日	市政懇談会で復旧・復興状況の報告開始（市内24地域）
令和元年7月7日	平成30年7月豪雨災害西予市追悼式
令和元年8月1日	新・野村保育所の再建に着工
令和元年8月2日	肱川水系河川整備計画変更案住民説明会（国・愛媛県）
令和元年8月30日	野村地区河川整備促進協議会設立
令和元年9月4日	災害公営住宅（太田団地）の整備を開始
令和元年9月18日	災害公営住宅（野村中央団地）・定期借地の整備を開始
令和元年9月18日	野村地区洪水ハザードマップ策定
令和元年10月4日	肱川水系河川整備計画変更原案住民説明会（国・愛媛県・市）
令和元年10月10日	野村中学校敷地内に「せいよ東給食センター」の再建を開始
令和元年10月18日	令和元年台風19号災害に伴う支援物資出発式 （栃木県鹿沼市・宮城県丸森町へ支援物資提供）
令和元年10月28日	福島県本宮市へ延べ7人の職員を派遣（令和元年12月1日まで）
令和元年11月7日	宮城県丸森町へ延べ6人の職員派遣（令和元年11月19日まで）
令和元年12月4日	宇和町地域明間地区の一部 岡山・中組地区避難指示解除
令和元年12月18日	肱川水系河川整備計画（変更）公表（国・愛媛県）
令和2年3月22日	のむら復興まちづくり計画策定
令和2年3月25日	乙亥会館災害復旧工事完了
令和2年4月1日	西予市地域防災計画を再度改定（第1回改定：平成31年3月27日）
令和2年4月1日	野村ダム・鹿野川ダムを統合管理する肱川ダム統合管理事務所を野村ダムに設置
令和2年4月3日	岩木地区避難指示解除
令和2年4月22日	事前放流ガイドライン策定
令和2年5月27日	新たな肱川水系治水協定を締結（国・愛媛県・関係機関）

令和2年5月29日	のむらからの手紙制作オンライン授業開始
令和2年7月7日	平成30年7月豪雨災害追悼献花式
令和2年7月7日	全国へエールを送る歌「のむらからの手紙」を初披露
令和2年7月19日	野村地区避難訓練を実施
令和2年8月1日	熊本県人吉市へ延べ15人の職員を派遣（令和2年9月1日まで）
令和2年8月17日	肱川流域治水協議会が発足（国・愛媛県・市）
令和2年8月28日	肱川河川改修事業住民説明会（愛媛県・市）
令和2年9月30日	定期借地引渡しを開始
令和2年10月12日	乙亥会館に災害伝承展示室オープン
令和2年11月4日	「語り部018のむら」による災害語り部活動が始動
令和2年11月16日	新・野村保育所及びせいよ東学校給食センター落成
令和2年11月27日	宇和町地域 明間地区四道避難指示解除
令和2年11月	野村地区肱川周辺水辺まちづくり計画策定
令和3年1月29日	野村町地域 河西地区避難指示解除
令和3年2月2日	災害公営住宅（太田団地）完成
令和3年3月11日	災害時用給水車を配備（最大1500リットルを積載）
令和3年3月末	南海トラフ地震えひめ事前復興推進指針策定（愛媛県）
令和3年4月9日	災害から学ぶパッケージ学習事業開始
令和3年4月23日	野村高校菜園共創プロジェクト始動
令和3年5月6日	災害公営住宅（野村中央団地）完成
令和3年7月4日	せいよ復興まちびらきコンサートを開催
令和3年7月4日	「のむらのうた」の大人版「野村人煦～立ち合い・サシアイ・支え合い～」を初披露
令和3年7月7日	平成30年7月豪雨災害追悼献花式
令和3年9月30日	野村地区公園広場等整備（右岸側）実施設計書完了
令和3年9月30日	平成30年7月豪雨災害記録誌を発行
令和3年10月22日	四国7水系ダム洪水調節機能協議会を設置（国）
令和3年11月13日	えひめ南予きずな博にて防災シンポジウムを開催

## 2 災害からの新たな一歩

### (1) 災害伝承展示室を核とした記録と記憶の伝承と防災学習の融合

復興計画に基づき、災害の記録と記憶の伝承及び学校・社会教育両面における防災教育の充実を図るための拠点として、令和2年10月、乙亥会館内に災害伝承展示室をオープンしました。整備にあたり、令和元年12月に策定した「西予市災害伝承展示室基本計画（以下、「基本計画」と言います。）」では、テーマを「事実を知り、学び合い、備えの先にいのちを守る」とし、災害の記録を伝承する施設としてはもとより、オープン後の活用と展開を踏まえた展示構成としています。

災害伝承展示室は、4つのゾーンで展示構成をしています。

○ゾーン1：「まちのこと」と題し、市の特性や過去の災害の歴史、災害当時の気象状況、降雨状況、被害状況などを知ることができます。

○ゾーン2：「あの日」と題し、災害当時の全容を写真、映像、新聞記事などで克明に伝えています。

○ゾーン3：「あの日」と題し、復興への歩みや多様な支援の全容とそれに対する感謝の言葉を発信しています。

○ゾーン4：「まなぶ、かんがえる、まもる」と題し、災害の教訓を学びに生かすため、当時を経験した住民の証言、各種防災に関する知識を学ぶことができる情報を展示しています。

活用と展開に向けて重要視したこととして、絶えず人と学びが還流する空間を目指すということが挙げられます。展示物は災害の「記録」を克明に伝えることができますが、「記憶」は当時を経験した人が積極的に伝えていかなければ風化してしまいます。また、展示室は学習資源として生かさなければ「一度見て終わり」になってしまいます。この2つの危機意識のもと、学びの拠点とすべく主に以下の2つの施策を展開してきました。

ア 災害語り部グループ「語り部018のむら」との協働

イ 多様な防災学習の機会を提供する「災害から学ぶパッケージ学習事業」の推進

### ア 災害語り部グループ「語り部018のむら」との協働について

「語り部018のむら」は、災害当時を経験した地元住民有志10名<sup>2</sup>によって結成された災害語り部グループであり、災害伝承展示室の案内をはじめ、被災地域を歩きながら当時のことを語り継ぐ活動を行っています。令和2年10月災害伝承展示室のオープニングセレモニーではじめての案内活動を行い、同年11月に一般利用者の案内を開始したことを皮切りに、令和3年12月末までに43の個人と団体合わせて720名以上を案内しました。

結成に至るまでの経緯は、令和2年6月に市から有志メンバーに対し、災害伝承展示室の整備方針等を説明の上結成を呼び掛けたことからはじまりました。①災害伝承展示室を学びの拠点とすること、②そのために室内の案内役を担う語り部人財が不可欠であること、③災害の記憶は当時を経験した人が能動的に語り継ぐという具体的な行動を起こさない限り風化してしまうこと、これらの前提のもと意見交換を行い、賛同いただいたメンバーと市が協働して、案内内容の構築、案内コースの設定、各種勉強会、デモンストレーションなどの準備を積み重ねてきました。

案内は、災害伝承展示室の案内を中心としてまち歩きコースを含め3コースを設定しています。

<sup>2</sup> 令和3年12月末時点 賛助会員1名を含む

【A コース】

内容	災害伝承展示室を中心として乙亥会館内で災害のことを学ぶコース
時間	60分
コース	災害伝承展示室→乙亥会館テラスからまちと河川を展望 など

【B コース】

内容	災害伝承展示室を案内後、乙亥会館から上流側のまちを歩きながら災害のことを学ぶコース
時間	90分
コース	災害伝承展示室→緒方家→商店街通り→三島町地区→三嶋神社

【C コース】

内容	災害伝承展示室を案内後、乙亥会館から上流側と下流側のまちを歩きながら災害のことを学ぶコース
時間	120分
コース	(三嶋神社まで B コースと同じ) →三島町地区(下流側)→氏宮川→石久保地区→山瀬川



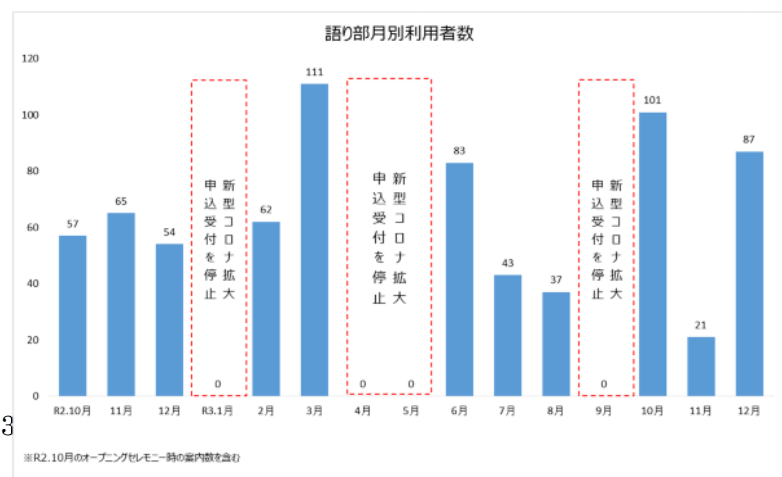
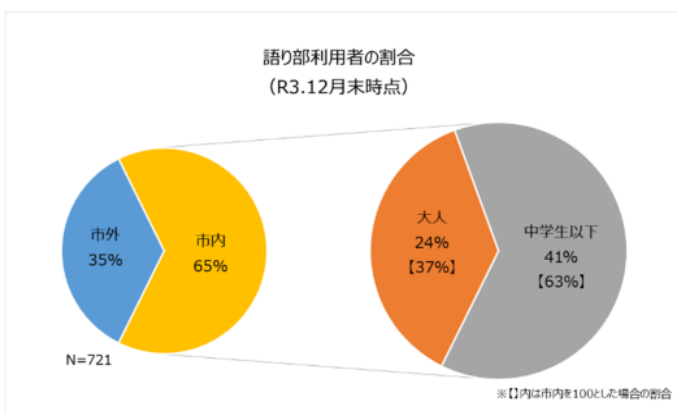
ルート画像 (青：Bコース、紫：Cコース)

【出典：西予市ホームページ (一部改)】

災害伝承展示室内の案内では、展示物の解説のみならず、写真やテロップを使い災害当時の様子を克明に伝えている他、自らの経験を踏まえた教訓を伝えるなど防災教育の推進に大きく貢献しています。また、被災地域を歩くコースでは、地元商店主らとも協力し、浸水時の状況を克明に伝えるなどしています。

利用者からは、展示物から知ることができる情報とはまた違い、経験に基づく話で当時の状況をより具体的に知ることができる点や、教訓化された話で今後の防災への学びが多い点などが評価されています。

利用者の割合を見ると、市内利用者の6割以上は中学生以下の児童生徒が占めており、授業の中で語り部による学習を希望する学校が多いことが分かります。また、市外からの利用者も全体の3割以上あり、主な利用動機は研修によるものであり、災害を契機とした学習需要は市内に留まらず一定数存在することが窺えます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により度々申込の受付を停止するなどしてきましたが、その影響を差し引くと年間を通じた学習需要があることが分かります。



語り部は、自らの体験だけでなく当時ボランティアセンターを運営した市社会福祉協議会、避難を呼びかけた地元消防団などと勉強会を開催し、それぞれの体験談を伺い資料化するなどの取り組みも行っています。災害の記憶と共に、災害の教訓を少しでも多くの方に伝える活動を通じて、更なる防災学習の推進に貢献することを目指しています。

市も、勉強会等開催補助、有識者による研修会開催、語り部利用申込フォームの作成・運営、資料作成補助、案内時補助等を通じて協働しています。引き続き、こうした取り組みを通じ、この活動に伴走していきます。



▲災害伝承展示室を案内する様子



▲まち歩きによる案内の様子

イ 多様な防災学習の機会を提供する「災害から学ぶパッケージ学習事業」の推進について

語り部による活動を通じ、特に市内小中学校の防災学習の需要が高いことから、令和3年4月、市内小中学校向けに「災害から学ぶパッケージ学習事業」をスタートさせました。これは、災害伝承展示室を防災学習の拠点として有効に活用しつつ、更に各機関・各部署が持っている学習メニューと組み合わせることで、質の高い防災学習の機会を提供することを狙いの一つとしています。学習メニューは、語り部、愛媛大学、愛媛県歴史文化博物館学芸員、市危機管理課、まちづくり推進課ジオパーク推進室、復興支援課が連携することで13種類用意しており、受ける側の希望に応じて選択できる仕組みになっています。

利用の流れは、申込書を復興支援課までメール提出してもらうことで実施可能です。申込受付後は、申込内容に基づき復興支援課が各関係者と調整を行い、学習企画を作成し、申込者への提示を経て最終内容を決定し実施します。実施にかかる経費のうち、講師派遣にかかる経費を市で負担しています。

本事業の推進にあたっては、教育委員会が所管する子ども教育振興基金を活用している他、教育委員会と連携し、西予市防災教育推進連絡協議会の場等で複数回に渡り教職員向けに説明・周知を行うことで事業の浸透に努めています。

【参考：学習メニュー】

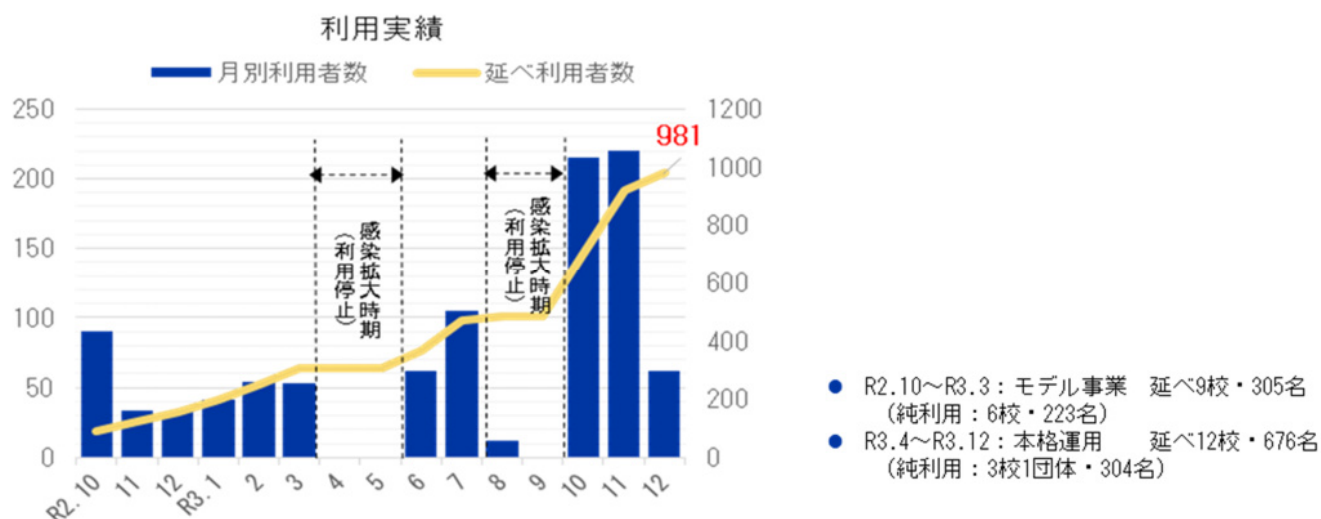
必須学習	
展示室を活用した学習（3パターンから選択可能）	
見学のみ	60分
災害語り部による案内・解説あり	60分
災害語り部による案内・解説（短縮 Ver）	30分

+

選択学習	
13のメニューから学びたい内容を選択	
地図から読み解く減災学習（ジオパーク推進室）	45分～
大地の下を見つめてみよう！（ジオパーク推進室）	45分
ブラのむら～ジオ×防災 まちを歩いて考えよう！～（連携事業）	120分
地震から命を守る（危機管理課）	45分～
風水害から命を守る（危機管理課）	45分～
避難のときに命をつなぐ大事な物を選ぼう（危機管理課）	45分～
自助・共助の重要性を学ぶ（危機管理課）	45分～
みんなが安心してすごせる避難所をつくるために（愛媛大学）	90分
未来の防災倉庫を置くならどこに？（愛媛大学）※	360分
クロスロードで学ぶ防災（愛媛大学）	45分
防災キャンプ（愛媛大学他）※	1泊2日
マイタイムラインを作ろう（愛媛大学）	要相談
災害VR・ARの視聴（復興支援課）	30分

（※・・・要事前相談）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により申込受付を停止する期間を挟みながらも、事業の周知が進んだ下半期は利用者が増加し、令和3年12月末までに延べ676名の児童生徒の利用がありました。本事業をモデル的に取り組んだ期間（令和2年10月～令和3年3月）を含めると述べ981名が利用しています。





▲プラのむら



▲展示室学習



▲避難のときに大事な物を選ぼう



▲地図から読み解く減災学習



▲災害 VR の視聴



▲展示室学習（乙亥テラス）

また、利用が進むにつれて、継続した防災学習を行いたいというニーズの高まりがあることが分かり、愛媛大学地域協働センター南予センター長（社会共創学部副学部長）の松村教授、同大学教育学部井上准教授のご協力のもと、継続学習用のカリキュラムを構築し、野村小学校6年生の総合的な学習の時間で継続学習を実施しました。

【参考：授業計画概要】

回	内容	講師	備考
1	クロスロードで学ぶ防災	愛媛大学社会共創学部 松村暢彦教授	2コマ≒90分
2	市防災マップで防災を学ぶ		2コマ≒90分
3	マイタイムラインをつくろう		2コマ≒90分 事後学習あり
4	防災倉庫をテーマに避難を考える		2コマ≒90分 事後学習あり
5	災害伝承展示室からの学び		2コマ≒90分 事後学習あり

この継続学習では、前半では、クロスロード（判断の分かれ道）、防災マップ、タイムラインなどを学ぶことを通じて、「防災とはなにか」を深く考えることから始まり、災害が起きた時の対応、災害が起きる危険がある段階での備えや心構え、そして平時における事前準備や備えの大切さを学ぶことができます。「準備や備え」と一言と言ってもその内容は多岐に渡ります。それらのことを防災マップの活用、マイ・タイムライン作成によって知識獲得と実践を繰り返す、災害対応力と応用力を引き上げていきます。

後半では、防災倉庫をテーマとして自助・共助・公助を学びながら、災害時「みんな」が有効に防災倉庫を活用するために必要な要素等を考えます。防災倉庫の存在は認知していても、そこに入っている物、鍵の管理者等が分からないことに着目し、それらの解決策についてグループワーク等

を通じ考えていきます。最終回では、災害伝承展示室に舞台を戻し、これまでの学習を通じて学んだことを他者（次世代）に伝承するため、何を伝えるべきかを考え言葉にする学習を行いました。これには、学びをアウトプットすることでより深い理解と応用につなげる狙いもあります。

こうした多様な視点から防災を学び、考え、実践していくことで意義深い防災学習とすることができます。また、これらのカリキュラムは単に「防災」を学ぶだけではなく、他者や地域との関わり合い、社会における自らの役割等を考えることで、主権者教育にもつながっています。

これらのカリキュラムは、最終的に事後学習によって成果物を制作し、公に展示します。防災倉庫の学習では、活用ガイドラインを A3 一枚程度にまとめ小学校の防災倉庫に掲示するとともに、「伝承したいこと」を一人一人書き出した成果物は災害伝承展示室に展示をする計画です。児童が得た学びを発信することで、次の人の学びにつながるような「学びの循環」を目指し、学校、愛媛大学と相互連携して発展を図っていきます。



▲継続学習の様子

僕が伝承したいのは、災害の起きる前が大切だということ。もし災害が起きてしまった場合、起きた後ではできないことが限られています。災害が起きる前なら、防災リュックの準備や避難場所の確認などができます。(S.K.)



▲制作途中の防災倉庫ガイドライン

▲成果物の一部

【最後に】

災害を決して風化させない、その決意のもと、語り部や関係者と協働して災害伝承展示室を核とした伝承と学習の仕組みに取り組んできました。本取組みは何より継続していくことが重要であると考えています。その過程において、取組みの更なるブラッシュアップを図り、より学びの意義を深化させていく必要があります。語り部活動における伴走支援体制の継続とともに、学習事業においては、防災学習機会を提供することのみならず、より学校現場が主体となって防災学習に取り組むことができる環境整備も必要であるとと考えています。引き続き、関係者と協働しながら進めていきます。



## (2) 人と人のつながりを活かし復興の輪を広げる

災害後、多くのボランティアによる支援や他地方公共団体の応援等があったことで復旧・復興が進みました。大規模災害においては個人や自治体単独の復旧活動では困難なことが多くあります。市が受けた支援や復旧活動の中で培ったノウハウ等を生かすため、市が3カ年で行った主な取組みとして以下のものがあります。

### ア 災害対応のノウハウを他の災害の被災地につなげていくこと

#### ○被災地への支援

災害名	被災地	支援内容	派遣期間
令和元年台風第19号	栃木県鹿沼市	支援物資（資機材）の提供	令和元年10月19日（物資到着日）
	宮城県丸森町	支援物資（資機材）の提供 延べ6人の職員を派遣	令和元年10月19日（物資到着日） 令和元年11月7日～11月19日
	福島県本宮市	延べ7人の職員を派遣	令和元年10月28日～12月1日
令和2年7月豪雨災害	熊本県人吉市	延べ15人の職員を派遣	令和2年8月1日～9月1日

#### ○「復旧・復興まちづくりサポーター制度」への参加

市は被災経験を持つ地方公共団体として、他の地方公共団体へノウハウを伝授できる復旧・復興まちづくりサポーター制度に登録しました。

今後は、この制度を活用しながら市の有する知見やノウハウを必要とする地方公共団体へ伝授していきます。

### イ 災害を風化させることなく、市内外に伝えていくこと

復興計画P45に掲げたように、令和2年10月に乙亥会館内に災害伝承展示室を整備しました。並行して災害の記録と記憶を継承するグループ「語り部018のむら」が結成され、災害当時の様子を克明に語り継ぐ体制が整いました。また、令和3年度から、市内の小中学生向けに更なる防災教育を進めていこうと、語り部、愛媛大学、愛媛県歴史文化博物館学芸員、危機管理課、ジオパーク推進室、復興支援課と連携した「災害から学ぶパッケージ学習」に取り組み、多くの児童生徒が災害を教訓とした防災教育の機会を得ることができました。

### ウ 支援いただいた方々との新たな相互関係

災害時に受けた支援によって新たな相互支援のネットワークが構築できました。例えば1年半に渡り復旧活動に従事いただいた「一般社団法人 OPEN JAPAN」はその後他の被災地で活動されている中で、その被災地に必要となる支援の内容を市に伝えてもらい、その報告を受けて被災地へ資機材提供や、人材派遣などの支援を行いました。また、野村町地域野村地区にはボランティアで活動していた方がそのまま定住し、まちづくりにつながる様々な活動を行っています。一方で、音楽アーティストによる復興ソングの制作、復興コンサート出演など災害での心の傷を癒す取組みも多くなりました。

(3) 令和3年度 せいよ復興まちびらきコンサート実績報告

令和3年7月4日に開催した「せいよ復興まちびらきコンサート」は、音楽アーティストによる復興支援により実現しました。本コンサートの開催概要を報告すると共に、出演者である INSPi 杉田篤志氏、Yurica。氏より支援活動報告を寄稿いただきましたので掲載します。

ア コンサートの概要

事業名	せいよ復興まちびらきコンサート
主催	西予市
協力	西予市教育委員会、西予市立野村中学校
実施日時	令和3年7月4日（日曜日）午後1時30分～午後4時30分
場所	乙亥会館（野村町野村12-10）
出演者	（出演順） ・野村地域の住民有志 ・Yurica。 ・INSPi ・さだまさし ・野村中学校1年生
特別協力	【舞台監督】 （株）クリエイト大阪 山形正樹 【総合司会】 フリーアナウンサー 二宮美奈 【総合プロデュース】 株式会社 DUKE 【運営支援】 一般財団法人宇和文化会館 【特別出演】 一般社団法人西予市観光物産協会（西予市公式ゆるキャラ せい坊）
来場者数	519名

イ 出演に至る経緯

○Yurica。

西予市野村出身で、災害以降チャリティーコンサートの開催、義援金の寄付など継続した復旧支援をしていただいています。本コンサートも復興支援の一環として出演をしていただきました。

○INSPi

野村小学校児童（当時）や野村地域の住民らと共に、復興ソングを3曲制作。本コンサートも復興支援の一環として出演をしていただきました。

○さだまさし

災害後、復興支援のため避難所を訪問し、避難されていた方に「次はギターを持ってくる」という約束をしたことから、本コンサートの出演が実現しました。

ウ コンサートの様子

野村人煦



Yurica。



INSPi



さだまさし



合 唱



ウ INSPi 杉田篤史氏の支援活動報告

○INSPi 活動報告

日時	活動概要
①2018. 9. 18	野村を訪問。市役所の方、学校、保育園など野村の方たちと話し合いうたづくりワークショップを企画。
②2018. 11. 18	「つくろう！のむらのうた」ワークショップを開催。ゆめちゃんこにて。「のむらのうた～がんばってみるけん応援してやなあ～」制作。
③2019. 3. 2	「のむらのうたコンサート」開催。野村小学校にて。
④2019. 7	「のむらのうた」ミュージックビデオ公開。愛媛大学社会共創学部の学生を中心に制作、野村の地域の皆さんにご出演いただきました。
⑤2019. 7. 20	完成した「のむらのうた」ミュージックビデオ上映会を野村で開催。軽トラ市開催中の商店街広場にて野村小学校合唱部と「のむらのうた」を町の人たちに披露。
⑥2019. 10. 29	東京都荒川区町屋 TOKYO L. O. C. A. L BASEにて「のむらのうた」ミュージックビデオ上映会&トークイベント開催。愛媛大学羽鳥剛史准教授、NPO 法人 TOKYO L. O. C. A. L 代表丸山慎二郎、hamo-labo 杉田篤史出演。
⑦2019. 11. 26	Yurica。さんとコラボレーションコンサート出演。野村の子どもたちと「のむらのうた」披露。乙亥会館前の広場にて。
⑧2020. 4～6	オンラインでのうたづくり授業で「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」制作。7月7日ミュージックビデオ公開。
⑨2021. 2～	オンラインでの野村の“大人たち”と「野村人煦（のむらじんく）」制作。5月12日ミュージックビデオ公開。
⑩2021. 5～6	「のむラブソングス」楽曲アルバム制作。 これまでに作った3曲、 「のむらのうた～がんばってみるけん応援してやなあ～」 「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」 「野村人煦（のむらじんく）」 を収録。地域振興の活動に活用していく予定。
⑪2021. 7. 4	「せいよ復興まちびらきコンサート」に出演。野村の子どもたち、大人たちと共演。

豪雨災害に見舞われた野村町の子どもたちと町の歌づくり

(年表①)

被災から2カ月後、子どもたちの心のケアについて何かできることはないか野村町の方たちと話し合いをしている中、思い返したのは2012年、東日本大震災にて被災した岩手県陸前高田市気仙沼中学校に歌いに行ったときのこと。生徒会長さんがしてくれたスピーチでの言葉「僕らの校舎は津波で流されてしまいましたが、校歌を歌うことで気仙中学校の生徒なんだと感ずることができず。」

この災害で子どもたちにとって怖い思い出ができてしまいましたが、町の楽しい記憶を込め、い

つでも故郷を感じられるような“町の歌”をつくろうとこのプロジェクトがスタートしました。

---

## 2018年11月野村町にて「みんなで作ろう！のむらのうた」ワークショップを開催 (年表②)

---

当日は野村小学校合唱部を中心にたくさん子どもたちに集まっていただきました。

どんな気持ちを歌に込めて作りたいか。そう聞いたとき子どもたちから出てきたのは「ありがとうの気持ち」「がんばりたい、がんばってという気持ち」。それは、支援物資をもらったり、合唱やバスケットボールなど子どもたちががんばっていることを誰かに応援してもらった時に「がんばろう」と思った経験から、そんな気持ちを込めたいと思ったそうです。

そして野村ならではの表現として、名所、特産品、方言やイントネーションを子どもたちや大人たちに聞き、曲の中に取り入れました。また、小学校・中学校・高校の全生徒の皆さんに野村についてのアンケートにお答えいただきました。

こうして「のむらのうた～がんばってみるけん応援してやなあ～」が出来上がりました。



▲ワークショップの様子

---

## 「のむらのうた」コンサートの開催とミュージックビデオ制作 (年表③④)

---

多くのご支援をいただき、野村小学校体育館にてフリーコンサートを開き、約200名の地域の方や報道関係の方にご来場いただきました。野村の子どもたちと共演し、地域の皆さんに歌を届けることができました。また、地域の皆さん、愛媛大学など多くの方のご協力を経てミュージックビデオを制作しました。撮影では歌詞に出てくる野村の名所を巡ったり、地元の方たちに多数ご出演いただき、野村の魅力や温かみが全国に伝わる内容となっています。



▲野村の子どもたちとの共演

「のむらのうた」は町の各種行事や、災害から1年の追悼式でも披露され、子どもたちが大切に歌い継いでくれています。

---

野村の魅力、復興・地域振興の取組を他の地域の方達にも伝えるお手伝い  
(年表⑤⑥⑦)

---

コンサート開催・ミュージックビデオ制作のためのクラウドファンディングを実施。

野村町での「のむらのうたコンサート」開催のため、株式会社 hamo-labo、NPO 法人 TOKYO L. O. C. A. L、愛媛大学の連名でクラウドファンディングを実施。返礼品には西予市の名産物（みかんジュースやジャムなど）の他、コンサート招待券や報告書送付、MV 撮影に同行し歌詞に出てくる野村の名所をめぐるツアーへの参加権、などを用意。

また、東京都にてミュージックビデオ鑑賞会イベント（⑥）の開催や、INSPi ライブで「のむらのうた」を演奏。観客の方からは「また野村に行きたい」「野村に行ってみたい」との声を多数いただいています。



▲軽トラ市で「のむらのうた」を披露



▲東京都荒川区での鑑賞会イベント

---

今度は西予から日本全国へ歌のエールを届けたい  
(年表⑧)

---

復興コンサート出演者として野村を訪れる予定が延期となりました。

災害から2年となる2020年7月、西予市では野村町にて防災や復興に関するシンポジウム&コンサートの計画をしていました。甚大な被害を受けた乙亥会館がついに再オープンを迎えるのを一緒にお祝いする予定でした。しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催は困難との判断に至り次年度に延期となりました。

そんな中、hamo-laboのオンライン活動をHPやSNS等でご覧になった西予市復興支援課の方から連絡をいただきました。「新型コロナウイルスにより日本全体が低迷しているところであり、歌で応援することができないか。我々が災害を受けた2年前は多くのボランティアに助けていただいた経緯がある。今度は西予から全国に歌によるメッセージを届けたい。」というお話でした。

そこで完全オンライン制作のうたづくり授業を、野村小学校の児童たちと行うこととなりました。

---

## 完全オンラインで完成した新曲（年表⑧）

「のむらからの手紙～応援するけん がんばってや～」

---

子どもたち自身から生まれた言葉が詞とメロディに。

野村小学校6年生39人と約1ヶ月間のオンライン授業を実施しました。

子どもたちには授業で伝えた“曲づくりに大切なこと”を踏まえて「今、会えない人」への手紙を書いてもらいました。

「○オリジナルな表現で、○そのときの心の動きと情景を描く、○相手に伝える」といったことを意識して書いてもらおうと素敵な表現がたくさん出てきました。そしてみんなの言葉を集めた一つの手紙ができあがり、それを子どもたちや野村のみなさんに朗読してもらいました。

その一つが今回制作のミュージックビデオに入っています。そこから野村ならではの方言や言い回し、イントネーションについてみんなで話し合いながらメロディをつくっていきました。

オンラインという不慣れた環境ながら、子どもたちはこちらの言葉をしっかりと吸収して、たくさんの気づきや意見を伝えてくれ、授業は毎回感動の連続でした。



▲野村小学校オンライン授業の様子

---

## 2020年7月7日の献花式・YouTubeでミュージックビデオを公開（年表⑧）

---

今作も子どもたち出演のミュージックビデオを制作しました。野村小学校6年生のみなさん、先生方、西予市役所のみなさんが熱心に取り組んでいただいたお陰で素敵な作品に仕上がりました。ミュージックビデオの歌詞の字幕は子どもたちの書いた文字を使い制作しました。



▲ミュージックビデオ撮影の様子（仮設住宅）

---

## 野村人煦（のむらじんく）の制作とせいよ復興まちびらきコンサート（年表⑨⑩）

---

2021年7月、感染拡大防止のかたちをとりつつですが、開催できる運びとなり、やっと INSPi 全員で野村に歌いに行くことができました。コンサートの際、あるご家族からお話を伺いました。災害により避難所生活、そして仮設住宅での暮らしが続いていたのが、ようやく最近新居に移れたとのこと。この3年、何度もお会いしてきたのですが、今回ご夫婦の表情が明るく輝いていたのが印象的でした。



避難所生活が始まった時は、小学校のお子さんが「ここにおるといろいろな人と話せて楽しい」と言って、お父さんは励まされたそうです。それでも仮設での暮らしが始まると、歌が大好きなお子さんでもあまり歌わなくなり。そんな中「のむらのうた」をつくってからは家でも歌うことが徐々に増えていったそうです。

3年近くの仮住まい、本当に苦労が多かったと思います。それでもご家族、父も母も子も、互いに気遣い支え合い、ついに新しい生活のスタート。ご家族の寄り添う姿が、本当に幸せな雰囲気、そこには乗り越えた人たちの強さも感じました。みなさんの表情は「いいかお」をされていました。

「いいかお」とは「命、一生懸命、感謝、思いやり」の頭文字をとったもので、「のむらのうた」の時の小学校長先生の言葉。それを胸に刻んでいた子どもが「のむらからの手紙」で歌詞にしてくれました。

相撲や田植えや、祭りや、イベントごとに協力しあいながら、大人が子どもに地域愛を伝えているのが野村。先ほどのご家族へも、地域の皆さんがきっといつも気遣い、いろんな場面で支えようとされていたのではないかと想像します。

地域愛が、災害の時には一番強いと感じます。地域愛を育てるのは、地域の文化を守り受け継ぐこと。

うたづくり第三弾として大人たちとつくった歌「野村人煦（じんく）」では、お酒のサシアイ文化、相撲文化、助け合いへの感謝など野村愛を盛り込みました。



▲せいよ復興まちびらきコンサート  
共演した子どもたちと記念写真



▲地域の方との交流



▲野村人煦披露で共演したみなさんと

オンライン会議を重ね作詞、レコーディングはリモート指揮、機材は地元の方のご協力を得ながら、映像も野村の方たちがいろいろなシーンの写真・動画素材を集めてくださり離れた場所でも創意工夫と一緒に作品づくりができました。

毎年各地で様々な災害が起こります。人々は悲しみと苦しみに襲われます。それでもきっと人々は支え合い、立ち直って、また暮らしていくはず。この3年間、愛媛県西予市野村町の皆さんと歌を通して交流させていただく中で、「人と人、人と地域、その調和が命を明るく繋いでいく」ということを改めて感じています。

株式会社 hamo-labo 代表/  
アカペラグループ INSPi  
杉田篤史

---

「のむらのうた～がんばってみるけん応援してやなあ～」

➡愛媛大学 YouTube チャンネルにて公開

「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」

「野村人煦（のむらじんく）」

➡hamo-labo YouTube チャンネルにて公開

野村との関わりをまとめたページ

<https://hamo-labo.co.jp/nomuranouta-project/>

エ Yurica。氏の支援活動報告

○Yurica。活動報告

日時	活動概要
2018. 7. 15	講師を務める音楽スクール(Smash Room School)発表会にて募金箱設置。
2018. 7. 17 ~ 19	西予市・宇和島市吉田町・大洲市へと支援物資を届ける。野村小学校避難所や物資を必要としているお宅を探し、十数箇所回りました。吉田町では公民館など数カ所を周り、大洲市では知人を頼り数カ所に届けました。(サポートミュージシャンの戸川智章氏同行)
2018. 7. 26	支援物資を送る。被災地に度々伺うこともご迷惑かと思い、物資の行き届かない箇所に送りました。
2018. 8. 4	埼玉県狭山市 七夕祭りライブにて西予市の話や「いつの日も」歌唱。会場に募金箱を設置させていただきました。この日から自身の CD お買い上げいただいた売り上げの一部も義援金にすることにしました。 (サポート:鈴木崇仁/戸川智章/相川雄太/横山鈴果)
2018. 10. 13	愛媛県豪雨被害 復興支援ライブ～いつの日も～ 関東にてYurica。主催の復興支援ライブを開催。募金箱設置、売上金の寄付、全額募金の復興支援ガチャ開始。 (サポート:鈴木崇仁/相川雄太/平原純平/大橋美玲) 協力出演アーティスト:赤松クニユキ※吉田町出身/ノマドス※メンバーの檜本学ヴさん西予市出身(漫画家)/イツカノオト/JAY'S GARDEN/MC:フリーアナウンサー根本由希菜
2018. 10. 18	埼玉県の山王小学校にて復興支援のお話と「いつの日も」歌唱。山王小学校の先生から「何かできることはないでしょうか」とご連絡をいただきました。そこから山王小学校で被災地の様子を届ける活動に至りました。児童達が寄せ書きを書いてくれたり、応援のVTRを制作してくれたり、それを野村の皆さんに届ける橋渡しが出来ました。
2018. 11. 23	FM愛媛ラジオ「LINK」出演。エミフルMASAKI サテライトスタジオにて、復興について語る。
2018. 11. 26	ボランティアライブ ①野村小学校訪問。お話とミニライブ。埼玉県の山王小学校からの寄せ書きを届ける。野村小ミュージッククラブの子供達の演奏で「いつの日も」合唱。 ②野村保育所訪問。おもちゃや絵本などの物資を届ける。 ③のむら中学校訪問。お話とミニライブ。
同日	西予CATV「きらりニュース」出演。復興支援について。
2018. 11. 27	第167回 乙亥大相撲 サブ会場にてミニライブ。本会場式典で西予市長へ義援金の贈呈。 (サポート:相川雄太/鈴木崇仁)
2018. 12. 9	関東・高田馬場天窓 comfortにて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 1。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD売り上げ等で集めたお金を義援金に。

	(サポート：相川雄太/鈴木崇仁/村上 通)
2018. 12. 25	野村保育所に楽器の玩具や絵本をプレゼント。楽しいクリスマスになればと思い、少しでしたが送らせていただきました。
2019. 1. 3	西予市成人式にてお祝いの言葉と、西予市歌「いつの日も」他2曲歌唱。
2019. 1. 4	NHK 第一放送ラジオ「熱唱！ニッポン！みんなでご当地 SONG 自慢」にて「いつの日も」放送有り。
2019. 1. 15	関東・西荻窪アトリオンでのライブにて募金箱設置。 (サポート：大橋美玲/鈴木崇仁/相川雄太)
2019. 2. 20	南海放送ラジオ「TIPS」被災地情報のコーナーに電話出演。復興支援や野村町の様子について語る
2019. 2. 23	愛媛・エミフル MASAKI にて愛媛県復興支援イベント「おもいやり消費ランド2019」出演。
2019. 2. 24	西予市野村町 居酒屋権の蔵にて、野村自治振主催「負けんぞ野村！～Music in the heart～ Vol. 2」に出演。昼の部では野外にて地元有志の皆さんの食事ブースがあったり、Yurica。チームもトラックの荷台ステージからのライブ。INSPi 杉田さんと野村の子供達で作った「のむらのうた」を有志の子供達が披露してくれ初視聴。西予市歌もみんなで合唱。最後に餅まきやお菓子巻きなどもメンバー全員とやらせて頂き、野村の皆さんと笑顔いっぱい時間を楽しませてもらいました。また、夜の部では地元のバンドの皆さん、野村高校生バンド、それから同じように被災された宇和島市吉田町からも長く交流のあるユニット「AG-skunk」さんがご出演頂き、お客さんはお酒を楽しんでもらいながらの歌ったり笑ったり時間を野村の皆さんと共有させて頂きました。出演料の一部を義援金にさせて頂きました。 (サポート：大橋美玲/戸川智章/鈴木崇仁/相川雄太)
2019. 3. 1	NHK ラジオ第一 らじる☆らじる「旅ラジ！」に、野村町の乙亥開館前から生出演。「いつの日も」歌唱。
2019. 4. 13	関東・高田馬場天窓 comfort にて復興支援ライブ。 四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブの Vol. 2。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD 売り上げ等で集めたお金を義援金に。 (サポート：相川雄太/鈴木崇仁/村上 通)
2019. 6. 9	西日本豪雨被災地支援チャリティーコンサート「リバイビングタウン」に出演。松山市のバンド「THE ORGIES」の皆さんと、松山市のライブハウス「W studio RED」で開催。チケット売り上げの全額を西予市と宇和島市へ寄付。(オルギーズさん名義にて) また、Yurica。が用意したガチャ募金と募金箱やCD 売り上げの一部も Yurica。名義にて寄付。野村からも沢山の皆様にお越しいただきました。 (サポート：鈴木崇仁/相川雄太/大橋美玲/戸川智章)
2019. 6. 10	西予 CATV「そら豆のきもち」に出演。野村町の Nagomi Style&Cafe にて収録。野村で生まれ育った 28 年間で生い立ちから復興支援活動の現在、復興への想い

	など沢山の気持ちを語りました。 (放送日：7/5 金曜)
2019. 9. 15	関東・高田馬場天窓 comfort にて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 3。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD売り上げ等で集めたお金を義援金に。 (サポート：相川雄太/鈴木崇仁/村上 通)
2019. 9. 30	2019. 10. 1 (火)～カラオケ DAM にて西予市歌「いつの日も」が配信決定。西予市庁舎にて記念式典に出席させて頂き、生歌唱。式典に出席された皆さんと合唱をしました。 また、西予市長さんに集めてきた義援金を贈呈しました。
2019. 11. 26	第 168 回乙亥大相撲 サブ会場にてミニライブ。INSPi 杉田さんと野村の子供達と「のむらのうた」や「いつの日も」などコラボ。
2019. 11. 27	南海放送「みきゃん大作戦スペシャル～復興そして、柑橘王国の未来へ」でのロケ。復興へと戦う野村町へ訪問。乙亥大相撲開催中の町を歩いて町の皆さんと話したり、被災された方々のお宅に伺ったり、野村町にスポットを当てた放送内容になりました。(放送：2020年1月25日(土))
2019. 12. 27	FM がいや他全国3局ネットで放送中の「メロンチックのおらぶラジオ」(メロンチックは宇和島市出身のお笑い芸人コンビ)が、放送100回を記念して、関東にて復興支援イベントライブを開催。「紅白歌合戦」と題して、宇和島市に繋がりのあるアーティストさんが紅白に分かれ対決しました。MC やスタッフの方も愛媛の方ばかりでした。私 Yurica。は紅組のトリを務めさせて頂き「いつの日も」を歌わせて頂きました。売上金は全額宇和島市と西予市に寄付されました。また、私個人での募金箱やCD売り上げの一部も義援金とさせて頂きました。
2020. 2. 23	関東・高田馬場天窓 comfort にて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 4。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD売り上げ等で集めたお金を義援金に。 (サポート：鈴木崇仁/大橋美玲)
2020. 7. 5	西予復興まちびらきコンサートが延期に。
2020. 7. 7	西予市追悼式にて応援メッセージを流して頂く。
同日	NHK 松山放送局ラジオ第一 「ラジオまどんな」に電話出演予定が延期に。
2020. 8 某日	西予市歌「いつの日も」が DAM に続き、JOY SOUND でも配信スタート。
2020. 8. 25	NHK 松山放送局ラジオ第一 「ラジオまどんな」に電話出演。復興について語る。 (INSPi 杉田さんもお出演)
2020. 10. 28	関東・高田馬場天窓 comfort にて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 5。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD売り上げ等で集めたお金を義援金に。 (サポート：鈴木崇仁/大橋美玲/相川雄太/戸川智章)
2020. 11. 25	関東・高田馬場天窓 comfort にて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 6。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD売り上げ等で集めたお金を義援金に。会場

	<p>の天窓 comfort さんは、長い歴史にも関わらずコロナの影響で閉店をするに至りました。最後の天窓 comfort でのライブという中、「売り上げを義援金に」という今までと同じ形で開催してくれました。</p> <p>(サポート：鈴木崇仁/大橋美玲/相川雄太/戸川智章)</p>
2020. 12. 7	<p>西予市役所に訪問。市長さんに義援金をお渡ししてきました。</p>
2021. 3. 25	<p>関東・北参道 Grapes にて復興支援ライブ。四国出身アーティストのしばあみ(今治市出身)、樹奈(高知県出身)と3人で始めた復興支援ライブのVol. 7。売上金や復興支援ガチャ、募金箱、CD 売り上げ等で集めたお金を義援金に。</p> <p>(サポート：鈴木崇仁/戸川智章/nozomi)</p>
2021. 6. 12	<p>関東での復興支援ライブ(じゅなゆりあみのいつもの企画)Vol. 8 がコロナの影響で延期に。次回開催日程を検討中。</p>
2021. 7. 4	<p>西予復興まちびらきコンサート、一年越しに無事開催でき、出演させていただきました。自身のステージ時間に加え、INSPi さんとのコラボ、INSPi さんや中学生になった子供達と「のむらのうた」を合唱したり、最後にさだまさしさんやINSPi さん、子供達や市長さんみんなで「いつの日も」を大合唱させていただきました。Yurica。の復興の道のりの中で生まれた「家族のうた」を初歌唱。</p> <p>(サポート：鈴木崇仁/大橋美玲/戸川智章/相川雄太)</p>

## 復興支援活動をしてきての想い

2018. 7. 7。ニュースで見た故郷の光景に愕然としました。何が起きているのか、今見ているものは本当なのか、わからなくなるほどでした。その日はただ、呆然とニュースを目で追うことしか出来ず、でも何かが自分の中にあるのはわかっていました。故郷に帰りたい。帰って何か出来ることをしたい。でも、自分の力なんてなんの力になれることもないし、ましてや今帰ったら逆に迷惑なのではないか。数日頭でぐるぐるとしていました。

SNS やテレビで、物資が足りないと困っていらっしゃる方が沢山いることを知り、自分にもできることがあったと思い、急いで物資を買い、呼び掛け、集め、サポートベースの戸川さんが一緒に行きますと言って下さり、車を愛媛へと走らせました。野村へと近づくにつれ、なんというのか心臓がドキドキし始めて、実際に現実なんだと受け止める怖さにやられそうになりながら、それでも自分の目で見て今やれることをやらないと後悔する。と葛藤しながら故郷野村町に着きました。絶句でした。でも。そこから私の復興への想いは自分にも計れないくらいに大きく重くなりました。

そこからの3年間、私が動いてきたことは、、

西予市に心を寄せていただいた沢山のアーティストの方々のご活躍や貢献のような力は全くあるものではなかったと思っています。全て自分がこうしたい、こうしてみようと思ったことでしかありませんでした。ただ、そうしようと思い突き進んだことには理由があります。

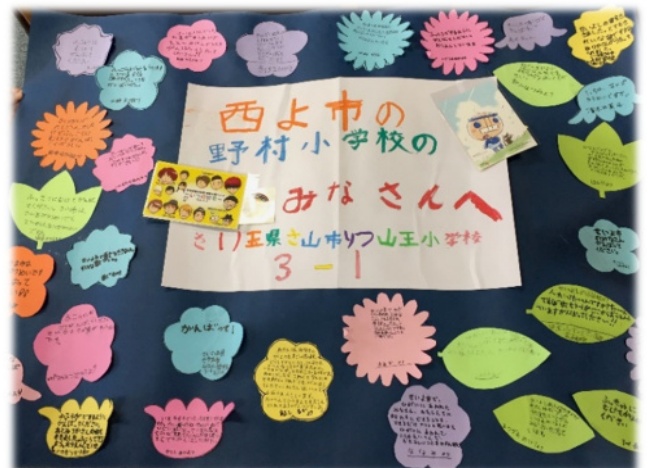
2018 年7月7日に豪雨災害が起き、いてもたってもいられず物資を届けに行きました。野村小学校の体育館に作られた避難所に物資を持って行った際、明るく笑って過ごす小学生の子供達が集まってきてくれました。子供達と少し話した時に「いつの日もいつも歌ってます。今度は歌いにきてください。一緒に歌いたい」と言ってくれたんです。ありがたくて「うん、絶対また歌いにくるけん」と答えました。そのあといくつかの場所に物資を届けに回ったのですが、あまりにも残酷な

状況を、行く先々で目の当たりにし、荷物を降ろし関東に帰ってきてからは、実はただただ落ち込んでおりました。私がしたことは正しい選択だったのか、大きなお世話やったんかもしれん。そしてあんな残酷な状況にこれから先、知名度もない私が音楽で力になれることはないだろう。そう思って、今後西予市で歌えることは諦めておりました。「それならば、私に出来ることはなんだ？」と考えた時に、応援を義援金という“形”にして、少しずつでも、出来るだけ長く届け続けよう。でした。それならばきっと「ご迷惑」にも「邪魔」にもならない。「それが私に出来ること」でした。

そうやって動いていく中で、被災後からいくつかのメールを頂きました。面識のある方もない方も。メールに書いてあったのは、それぞれの現状など教えていただいた内容に加え、ありがたいことに多くの方が書いて下さっていたのは、私の活動へのお礼と、「歌いに来てください」という言葉でした。「災害が起こる前も、災害が起きてしまい泥だらけで掻き出しの作業をしている時も、お昼になるといつもと変わらず「いつの日も」のチャイムが鳴ります。チャイムを聴くと、日常の綺麗だった野村の景色やいろんな思い出が浮かんで、がんばろうと思えるんです」「歌いに来てください。待ってます。」

そんなありがたいメールに何度も目を通しながら、「ああ、そうやった。いつの日もは、西予市の鮮やかで抜けるような透明感のある景色の、色や表情、それを作ってきた西予市のお節介なくらいの人情味溢れる人達の間人模様を思い書き、遠くから故郷を思う私がずっと変わらないでいて欲しいと願いを込めながら書いた歌やった」と改めて思いました。そして同時に、避難所で集まってくれた子供達の「今度は歌いにきてください。一緒に歌いたい」という言葉を思い出しました。もしかしたら今までの日常とかけ離れた「ただ耐える」の毎日の中で、「ただ楽しむ」ことが必要になる時が来るのかもしれない。知名度のない私でも、関係なく、一緒に口ずさめる「いつの日も」があるなら、“たった5分”の歌が“楽しい5分”になるのではないかと思います。それでもやはり不快に思われる方もいらっしゃるかもしれないし答えはわからないままでしたが、待っていてくれる方がいるかもしれないなら、一人でも張り詰めた心が緩められる方がいるかもしれないなら「歌いに帰ろう。」と思うようになりました。これが、また歌いに帰らせていただこうと思った理由でした。

そこで最初に行動にしたのは2018年11月26日(月)のボランティアライブです。野村小学校、野村中学校、野村保育所に連絡をしましたところ、校長先生や園長先生が「是非来て頂けたら嬉しいです。子供達も喜びます」と言って下さりました。愛媛に行く前に埼玉県の山王小学校の子供達から預かっていた寄せ書きや、私が関東で開催した復興支援ライブに出演した応援者のアーティストの皆さんをせい坊の生みの親の漫画家・榎本学ヴさんが描いてくださった絵葉書を子供達全員分持って、歌いに行かせていただきました(保育所には災害で無くなったであろうおもちゃや絵本を持っていきました)。ステージから見た子供達の楽しそうな顔がとても嬉しくて、ステージを降りて子供達と一緒に歌ったりしてしまいました。



▲埼玉県狭山市立山王小学校からの寄せ書き



▲野村保育所へ絵本等の贈呈



▲野村小学校の子供達と歌で交流

そこには避難所で約束を交わした子供達の顔も見つけ、歌いながら近くに行くと、はちきれそうな笑顔で一緒に歌ってくれました。終わってから、その子供達に「来たよ。一緒に歌ってくれありがとうね」と伝えると「ほんとに来てくれてありがとう。また絶対歌いに来てね」と言ってくれました。そこから私は、歌わせていただける機会や場所や時間を頂ける時は悩む事なく歌いに行かせていただく事を続けています。ただ、本来なら報酬も頂かずに行くことが大事なのではとも思いますが、そこは、応援を長く続けるにあたって自身も歌い続けていける状況でないといけないうこと、それから、歌い続ける中で義援金の活動も続けたいこと、私自身も少ないですが毎回の義援金を続けたいこと。そんな事情があり報酬を頂いてしまうことは心苦しくも感じております。ですので、ステージにおいて、報酬以上のものがお届けできるようにと、1ステージ1ステージ、当たり前ではありますが誠心誠意で臨んでおります。災害から3年経ちましたが、その間私自身、ふと立ち止まる瞬間もあって、「これでいいのかな」とやはり何度も悩むこともあります。そんな時2つの信念に基づいて判断をします。

一つ目は「繋ぐ」こと。2018年7月15日、災害が起こってすぐ自身が務める音楽スクールの発表会にて募金箱を置いたときも、同年8月4日の埼玉県狭山市のお祭りライブ会場にて募金箱を置いたりCDの売り上げを義援金にしますと言った時も、また、同年10月18日に埼玉県の山王小学校で災害のお話と「いつの日も」を歌わせていただき山王小学校のみんなから寄せ書きや応援VTRを預かった時も、「ありがとうございます」と言われました。「災害を知って何か力になりたいのに、関係ない人間だから何をしたいかわからなかった。何が出来るのか分からなくて何もできなかった。だから、こんな機会を作ってくれてありがとうございます」と言っていました。

びっくりしました。「助けてください」とこちらがお願いしているのに、お声がけいただくのは感謝の言葉ばかりでした。その集まった皆さんの“御心”を、西予市へと届けて、今度は西予市の皆さんからの「ありがとう」を持って帰る。もちろん野村小学校からの「ありがとう」も埼玉県の山王小学校に届けました。山王小学校の子供達も先生もとても喜んでおり、山王小学校ではそれから給食の時間や掃除の時間などに「いつの日も」が流れることがあるそうです。そんな繋がりが、復興に於いて私はとても重要だと思うのです。本来なら繋がることがなかった方々が繋がったり、“御心”が届くのなら、この活動は意味がないことではないとそれは強く思うのです。私はただ“機会”を作っているだけです。私なんぞが動かなくても沢山の方があの時西予市へと思いを寄せていました。ただ、出来ることがみんな見つからなかっただけなんです。だから、私はその“機会”





を作る役割だけは、胸を張って動いてもいいのかな。と、信念の一つにしています。(もちろん、私の活動を快く思っていらっしゃらない方も沢山いらっしゃることは重々承知しております。メールなどいただくこともあります。同業者からも強い言葉を頂いたこともあります)ですので、自分で開催するライブには「応援」という言葉に変えたり常に試行錯誤し続けているところではありますが、そのようなメールなどいただいた方にも誠意を持って「私が動いている信念や、繋ぐことだけはやらせてください。」とお返事は必ず返してご理解いただいております。)

もう一つは、、今年7月4日の「西予復興まちびらきコンサート」で、さだまさしさんがしっかりと言葉にされてお話しされていたこと。「心が動くということが大事」と。歌っていく中でなんとなく感じていたことをスッキリさせていただきました。やはりさださんはすごい方だなあと心を奪われました。なのでさださんの言葉に思いっきり乗っからせて頂く形ですが(笑)、「心が動く」ってとても大事なことだと思います。どんな感情であってもです。まずは私ごとになりますが、私が災害を知ってから物資を届けに行こうと決断することを決めたのは、家族に言われた言葉でした。「ママが笑っていない。喋らなくなった」と。野村のことしか頭になくなっていて、思わずハッとしました。今になって思うと、その時は心が止まってしまっていたのかなと思います。それで「行っておいでよ」の言葉に行くことを決断しました。振り返ると、物資を届けに行くのに怖くなったり、現場の残酷さに胸が痛くなったり、活動の中でうまく行かないことも多く、度々落ち込んだり悩んだり。それすらも全部、動かないで無表情や呆然の毎日を送っていたかもしれないことと比べたら、「心が動く」って本当に大切なことなんだとそう思います。

私は歌う時、ステージから出来るだけお客さんの顔を見ながら歌うようにしています。届けたい言葉をしっかりと伝えたくて、お客さんの一人一人の表情で言葉を返して頂いているように思うからです。災害があって、歌わせて頂く際にステージから沢山の方の言葉(表情)を返していただきました。災害から間もない頃は、涙する方も多かったのを覚えています。ただ楽しんで笑ってくださる方、身振り手振りや一緒に口ずさんでくださる方、沢山のやりとりができました。

また、歌いに帰った時、顔見知りの方が多きこともあって沢山の方が声をかけてくれます。実際に「楽しかったよ」「まだ辛くて歌を聴きには行きたいけど行くのを躊躇した。でも来て良かった」「頑張らないけんな」と、いろんな感情を話していただきました。もちろん音楽が好きじゃない方もいらっしゃるわけだし、時にはうるさいなと不快に思われる方もいらっしゃるのだと思います。でも。「うるさいな～」と思ったり、悲しくなったり嬉しくなったり、それでも「心が動く」ことはやっぱりさださんが仰られていたように、健康に生きて行く為に大切なことで、私自身、「無」であることが1番悲しいことだと思うから、知名度もない私なんぞの歌で心が動いていただけのなら、私はそこにも歌いに帰る意味があると思ひ、これまでもこれからも、必要としていただけるなら歌を届けに帰りたいと思っております。



▲負けんぞ！野村イベントに参加



▲INSPi 杉田さん・野村の子供達と共演

そんな色々あった3年間の動きの中で今年7月4日。「西予まちびらきコンサート」のお声がけを頂き、素晴らしく大尊敬する歌手の皆さんにご一緒させていただき出演させていただきました。もちろん有り難く出演を決めたわけですが、延期期間も含めた約1年半でしょうか、ずっと「どうやって私なりの届け方をしよう。」と頭を悩ませておりました。

さだまさしさんや INSPi さん。偉大な演者の皆さんの歌や心を届ける力の凄さは、言わんとして大きい力になる事は間違いなく、私の役割はどこにあるかと答えを出すところから始まりました。出演者の皆さんや関係者の方々に恥じないステージを作ることはもちろんでしたが、何より会場に時間を割いてお越し頂く西予市の皆さんが、私の時間もただ楽しんで頂ける30分を私は作りたかった。

そんな中で作ったのが、この日最後に歌った「家族のうた」です。ずっと「復興の力になるような応援ソングを書きたい」と、心にありました。でも、ずっと西予市の現地の状況を見て聞いてきた私は、歌詞を書こうと曲を書こうと思ったら、全てが軽々しく思えてきて、ずっと書くことが出来ずいました。結果、全ての完成は本番前日になってしまい、サポートメンバーや会場スタッフの皆さんに多大なご迷惑をおかけしてしまいましたが、メンバーも現場監督さんも「いいですよ。やりたいようにやってくださいね」と言っていたので、完成に至ることができました。



▲せいよ復興まちびらきコンサートにて

西予市野村町で生まれ育つての感謝の思いや、災害が起きてから度々野村に帰って悲惨な様子も、戦う姿も見てきたからこそその私なりの「応援ソング」ができました。「がんばれ」でも「頑張ろう」でも「負けるな」でも無く、心が寄り添っていられる歌を書きたかった。

あれから3年で、西予市の皆さんのご努力や頑張りにより、少しずつ新しい西予市を作り出していらっしやって、新しい家に新しい服、新しい生活スタイル、少しずつではありますが、周りから見て「良かったね！」と言える町に生まれ変わりつつあります。それは私としても嬉しい限りです。ただ、笑顔で乗り越えてきた皆さんの、人には出せない心の内側には「失った思い出への悲しみ」や、やり場のないそれぞれの痛みは今までもこれからもあって、続いて行くのではないかと思ったのです。そこを一旦吐き出して欲しかった。どんな心の悩みや痛みも、一人で抱えることは決して健康ではなくて、似たような想いをここにも持っている人間がいるよと伝えたかったし、あの会場であの時間を共に共有できることで、私なりの「応援」を届けさせて頂くことができました。終わってから沢山の方から直接のお言葉やメール等いただきました。沢山の方が涙が出たとの言葉に、「もしかしたら思い出したくない部分をほじくり返してしまったのかも、..」と不安になりましたが、皆さんが仰られていたのは「ずっと笑ってきたけどほんとはしんどかった」「みんな頑張りよるけん、辛いとことか見せれんかったけんずっと笑ってきたけど、やっと泣ける機会をもろた」「新しい家は本当に有り難い。でも、思い出が詰まった古い家がやっぱり好きでな。家ができただけでもありがたいことやけん、人にはその寂しさは言えんかったんよ」という言葉ばかりでした。災害が起こってしまった時、復興へと取り組む中で「音楽」が必要なものかと問われたとしたら、「“1番”ではないし“絶対”でもないけどそれに近いくらい“必要”だと思います」と、私は答えたいです。ただ耳にするだけで心が動く。ただ受け入れるだけでできる身体も心も健康でいられる手段

ではないでしょうか。知名度もなく影響力もない私ですが、ほんの少しでも誰かの心を動かせることができるなら、これからも変わらず西予市へと歌いに帰らせてください。ずっと変わらない景色と西予市の人間味を歌った「いつの日も」と、私なりの応援歌「家族のうた」をこれからも届けさせてください。

西予市の復興の道のりを遠くからずっと思っております。

2021年10月8日(金)

Yurica。